

羅 針 盤		
評価対象	評価項目	具体的数値項目
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①進学重視型の単位制の学校として、習熟度別・少人数制の授業形態や、自らの考えを深めたり、周りと意見交換し合ったりする授業内容に満足している生徒が70%以上いる。
		②「みらい学」を中心としたEAST Projectに主体的に取り組む生徒が、70%以上いる。
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が、70%以上いる。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤生徒が「主体的」に取り組む授業の工夫が行われ、授業に「主体的に取り組むことができた」と答える生徒が、70%以上いる。
		⑥自分のもつ力を発揮して、学習に意欲的に取り組んでいる生徒が、70%以上いる。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦進路目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が65%以上いる。
⑧平日の学習時間が1時間30分以上の生徒が、75%以上いる。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨登下校時、生徒が自転車事故に遇わないために交通ルールを遵守させる。
		⑩清掃時、職員室清掃関係者以外は職員室から出て校内美化に努める。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪「スマホ利用ルール」、「スローガン」、「SNSに頼らない人間関係づくり」を実行できている生徒が70%以上いる。
		⑬家庭と連携を図りながら、生徒の怠慢による遅刻を減らし、1日の平均遅刻者が全生徒の2%以下である。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑭自分の健康管理に気を遣って生活している生徒が80%以上居る。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭担任と生徒の二者面談を年2回以上、保護者を加えた三者面談を年2回(1・2年次は1回)効果的に実施する。
		⑮進路に関わる情報提供に肯定的な印象をもつ生徒が80%以上いる。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように努力をしている生徒が、75%以上いる。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰家庭、地域社会が学校評価の「学校を開く努力」の項目に75%以上が肯定する。
		⑱学校案内、広報紙「みらい」の充実をすすめ、ホームページを定期的に更新する。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑳ICTを活用した通知に、生徒の70%以上が満足している。

方 策
①「新しい学びのための授業改善事業」を活用し、幅広い学力を付けさせる授業の実践を行うとともに、55分授業を活かし、授業内での言語活動の充実を図る。
②生徒の進路意識向上や学習への動機付けとなるよう、探究活動を工夫して行わせる。
③授業を充実させるとともに、特別活動や部活動などの活性化を図る。
⑤言語活動を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業展開を行う。
⑥習熟度別授業や少人数制授業のよさを十分に生かすとともに全ての学力層の生徒に対応した授業を行う。
⑦基礎基本の定着を図るとともに、適切な課題配布や課外授業によりそれらを活用できる指導を行う。
⑧進路講演会や二者面談等を行い、生徒に適切な目標をもたせ学習への自覚をうながす。
⑨係職員と係生徒が中心となり、登下校時の交通指導や交通安全教室等を行うとともに、全職員が積極的に指導に関わる。
⑩生徒とコミュニケーションをとり、積極的に清掃に取り組む環境を作る。
⑪いじめ早期発見に向け、生徒観察、校内巡視及び定期生活アンケート等を行う。また、生徒が悩み等を相談しやすい環境作りに努める。
⑬遅刻者記入カードを活用し、遅刻常習者には保護者と連携して、個別の指導・支援を行う。
⑭「保健だより」で健康面を、「教育相談」や二者面談等で精神面を支え生徒の全般的な学校生活を支援する。
⑭進路希望調査や模試結果などを通して、生徒の進路希望・適性・学力等を資料化し、認識を共有する。
⑮進路通信の情報発信に加えて、年次ごとの進路講演会や集会での連絡を効果的に実施する。
⑯キャリア教育に関する行事の際に、事前事後の指導を徹底するとともにその成果と課題を検証する。
⑰学校説明会、オープンスクールなどを効果的に実施するとともに、積極的、計画的に広報活動を行う。
⑱学校説明会等で学校案内、広報紙を配布するなどして、本校の良さを伝え、理解と協力を得る。
⑲教員がICTを活用しやすいように環境整備に努め、利用にあたっての技術情報などを伝達する。
⑳職員がICTを活用しやすいように環境整備に努め、利用にあたっての技術情報などを伝達する。

第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
B	B	友人どうしの学びあいの関係は構築できつつある。コロナ禍においては、十分な感染対策を行ったうえで、話し合いや意見交換を積極的に取り入れ、イノベーションラーを中心としたさらなる授業改善に努める。	B	B	昨年同様コロナ禍の授業では、話し合いや討論等がやりにくい状況が続いている。感染対策を確実にし、言語活動や対話的活動の充実を図る。
B	B	コロナ禍ではあるが、可能な限り充実した探究活動を実施することに加え、他の進路行事で補填していく。	B	B	医療系希望者対象の説明会を今年度より多く計画し、生徒が主体的に参加する場を多めに設定する。
B	B	充実した学校生活を送れるよう授業及び学校行事の充実を図る。	B	B	授業や学校行事ばかりでなく、友人との関係の中も充実感を味わえるような工夫をしていく。
B	B	話をするばかりが言語活動ではない。classroomの機能を活用し、話すことが苦手な生徒も積極的に、発信できる工夫を検討していく。	B	B	Classroom等の機能を活用し、「書く」ことによるアウトプットの方法を工夫・検討する。
B	C	授業で習得した知識や能力を活用しきれていない。受験ばかりでなく生活の中での活用を意識して指導を行う。	B	C	全ての学力層に対応するのは正直無理である。スタディサプリ等の活用も検討していく。
B	C	授業への取組や学びあいの関係は向上しつつあるが、家庭学習の定着度は下降している。進路目標と自分の学力を客観的に分析する力を身に付けさせる。	B	B	課題の出し方や課外授業等の実施方法や対象生徒について検討していく必要がある。
B	C	探究活動や進路行事により進路目標を明確にさせ、自主的に学習する姿勢を促す。	B	B	自主的に学習する姿勢を促すようなキャンペーンや進路行事を増やしていきたい。
B	C	交通ルールの遵守や交通マナーの向上のために、定期的に係職員で登下校時の交通指導を行う。	B	B	交通ルールの遵守や交通マナーの向上のために、定期的に係職員を中心に登下校時の交通指導を行う。
B	B	家庭で清掃を行っている生徒は少なく、清掃の方法について清掃監督からの適切な指示が有効となる。	B	B	清掃用具の管理・点検をこまめに行う。箒からモップへ用具の変更を進める。
B	B	校内研修を実施し全教職員がよりアンテナを高くし、生徒観察や状況把握に努め、情報共有を図る。生徒の相談には、真摯に向き合い話を聴く。	B	B	校内研修を実施し全教職員がよりアンテナを高くし、生徒観察や状況把握に努め、情報共有を図る。生徒の相談には、真摯に向き合い話を聴く。
B	B	担任の対応だけでなく、全教職員が同一歩調で指導に当たる。	B	B	担任の対応だけでなく、全教職員が同一歩調で指導に当たるとともに、社会人としての資質についての啓発を進める。
B	B	各種感染症の予防指導を含め生徒自身が健康管理に関わる知識を活用できるように働きかけを行う。	B	B	生徒保健委員作成の保健だよりを発行し、生徒自身が考える材料を提供する。
B	B	生徒に関する情報の資料化や認識共有がやや遅くなる傾向があったので、もう少し早い段階で実施できるよう努力する。	B	A	生徒に関する情報の資料化や認識共有が年間を通じてしっかり取れたので、次年度以降はスピードも意識したい。
C	B	生徒・保護者ともに80%近くが肯定的な印象を持っているが、希望者対象の進路行事を増やすことでもう少し進路情報の発信に努めたい。	B	A	生徒・保護者ともに80%近くが肯定的な印象を持っているが、国公立大学希望者対象の進路行事を増やしていきたい。
B	C	キャリア行事に関わる行事についての事前事後指導についてやや不足しているので、もう少し徹底したい。	B	B	キャリア行事に対する事後指導をもっと強力で推し進める。
B	B	新型コロナウイルス感染症予防のため、広報活動は制限されることが多かったが、感染状況を見定めながら数少ない機会を効果的に生かしていく。	B	B	学校説明会、オープンスクールを行うことができなかった。今後の感染状況を見定めながら、職員による中学校訪問を行うなど、新しい方策を考える。
B	B	オンライン学校説明会や「学校案内」の中学校への配布などによって、限定的ではあるが、広報に努めた。	B	B	学校紹介や有益な情報提供が可能になるように、より分かりやすい情報発信になるようホームページの充実を図りたい。
B	A	より生徒が満足できるよう、ICTの効果的な利用の情報などを職員に周知・提供していく。	A	A	ICTを活用するだけでなく、分かりやすい授業ができるような技術やコンテンツを紹介する。
A	A	職員がICTを活用した通知を便利に利用できるよう、各種サービスの活用方法を伝達する。	A	A	アプリやサービスの改良・変更点などの技術情報をできるだけ早期に連絡する。